

まなづる 海の月報

トピック 真鶴の海

台風のもたらす被害と恵み



台風14号が過ぎ去った翌日も高波が続く三ツ石海岸(左)、台風で打ち上がったゴミが散乱している様子(右:2019年10月 岩海岸で撮影)

9月末、大型の台風14号が関東に接近しました。大きな被害は出ませんでしたでしたが、当初は強い勢力のまま上陸する恐れもあり、大雨や強風に加え、真鶴のような海沿いの町では、高潮、高波の心配もありました。台風が近づくたびに、港では船を陸に引き上げたり、定置網を海から抜いたり、漁業者の方たちは数日前から漁を休んで対策をしなければなりません。さらに、台風通過後は大雨で陸から流れ出したゴミが、海岸に大量に打ち上がることもあります。

台風はおそろしい災害というイメージが強いですが、自然にとっては悪い事ばかりではありません。夏、強い太陽の光に照らされて温まった海の表層の海水は、深場の冷たい海水と混ざりにくくなります。さらに、生物が出す有機物などの影響などもあり、表層は澱んだ状態となってしまいます。しかし、台風は海水をかき混ぜ、良い状態に戻してくれます。さらに、台風によって攪乱されることで、生物が入れ替わったり、めずらしい動植物が漂着したりと、台風の後には、それまでと違った海の姿を見られることがあります。

とはいえ、近年は海水温の上昇に伴い、台風は本州周辺に近づいても発達を続ける傾向があり、今後はより強い勢力でやってくるのが予想されているので、注意を怠ることはできません。

真鶴の海況

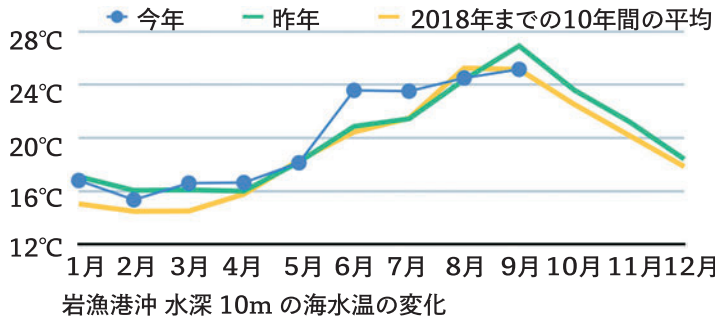
海が温かい9月、季節来遊魚で賑やか

岩漁港沖水深10mの9月の海水温は25.2℃でした。

例年を大幅に上回った昨年9月に比べて低く、平年並みの海水温でした。9月は、一年のうちで最も海水温が高くなる時期で、チョウチョウウオやナンヨウツバメウオの幼魚など、南方から黒潮に乗って流れてきた季節来遊魚が多く見られています。

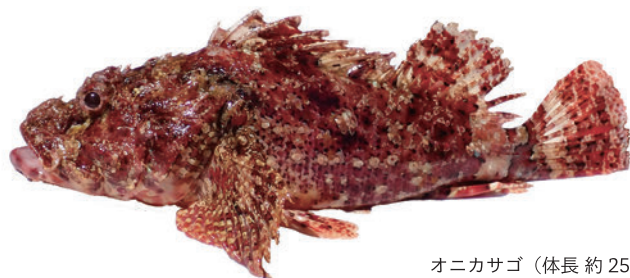


ナンヨウツバメウオの幼魚。枯葉に擬態して海面を泳ぐ。(2021年9月15日撮影)



まなづるの漁獲情報

えび網にかかる根魚もちらほら



オニカサゴ(体長約25cm)

9月の真鶴町漁協の定置網では、キハダマグロや、沖縄で”イラブチャー”と呼ばれ親しまれているアオブダイの仲間などの水揚げがありました。いずれも南の温かい海に多い魚で、以前は真鶴では少なかった魚種が増えてきています。また、8月から解禁になったイセエビ漁の刺し網には、イセエビの他にも、カサゴなど定置網にはあまり入らない魚もかかっていますが、近年はハタの仲間など、こちらにも以前は少なかった南方系の魚種が増えてきています。

イセエビの刺し網で獲れる魚は、根(岩礁)に生息するので根魚とも呼ばれ、岩礁に生えた海藻や小さな甲殻類、小魚などを食べています。今回ご紹介するオニカサゴは、浅場からやや深めの岩礁周辺に暮らす根魚です。流通が少なく高値がつくこともある美味しいお魚ですが、立派な背びれ、腹びれ、尻びれに毒があり、刺さらないように注意が必要です。背びれなどを切り落としてから捌き、煮付けにして美味しくいただきました。

町立遠藤貝類博物館 10月中旬~11月のイベント

- 10月24日(日) 真鶴自然子どもクラブ
「秋の海辺でミニ博物館をつくろう」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【要申込・有料】
- 10月28日(木) 海まちらポ 海トーク
「美しきプランクトンの世界&夜のプランクトン観察」
町民センター3階 講堂【要申込・無料】
- 11月6日(土) 海まちらポ 海さんぽ
「ひものづくり体験&プランクトン観察」
真鶴町漁協 魚市場・里海 BASE【要申込・有料】

町立遠藤貝類博物館は10~12月は土日および祝日に開館します。詳細はHPをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。印刷、掲示・配布歓迎です。